

全校遠足



恒例の多峰主山（とうのすやま）への遠足です。きくまつりのように一日中生活団で過ごします。下級生の手をひいて、面倒をみる上級生の姿は、微笑ましいものです。また、6年生は地図を見て、どの道に行くのか、お弁当はどこで食べるのか、全てを子ども主体で動きます。道に迷って、どうしようかみんなで相談したり、疲れたと言って6年生が1年生のリュックを持ってあげたりするのもいい思い出となるでしょう。一日、生活団の子たちと一緒にいるといろんな話ができるものです。この日に、一気に絆が深まった、という感想を持った子どもも多数いました。

遠足の最後には、一人ずつの感想発表があります。一年生も、かわいらしく楽しかった様子を話してくれます。6年生は、最後の遠足での思いを語ってくれます。「この遠足が、終わってほしくないなあ。」そんな感想を述べた6年生もいました。絆の深まりを確かめ合う、大切な時間です。

本校の伝統行事「きくまつり」。この日は、開校を祝う会、菊の子汁作り、菊の鑑賞会、風船上げと、盛りだくさんの一日になります。

開校記念日が11月6日です。開校を祝う会では、毎年卒業生の方に依頼して、講演をしていただきます。今年は、飛行機のパイロットになられた岩崎さんに来ていただきました。小学校時代の思い出や将来の夢、そして現在の仕事についてお話を伺うことができました。パイロットへの夢を持っている子はもちろんですが、興味を抱いた子も多かったようです。

次に、菊の子汁作りです。この日をめざして、生活団（学年縦割りグループ）で野菜を育てます。「みんな、野菜いっぱい菊の子汁になるように、畑の水やりをがんばろうね！」と、6年生が声をかけます。菊の子汁とは、一般的な豚汁ではありますが、きくまつりに作るその鍋のことを「菊の子汁」と呼んでいるのです。中に入れる野菜はもちろん学校で採れた作物のみ。そうです。菊の子にとっては特別な思いのこもった一つの鍋なのです。野菜を切る係は〇〇さん、火をおこす係は□□君、と分担して、生活団ごとにおいしい鍋を作ります。味は、生活団ごと随分違うようですが、皆声を揃えて「うちの団が一番おいしいよ！」と言っています。

菊の鑑賞会では、これまで育ててきた一人一鉢の菊を観賞します。小学生が作るのですから、なかなかうまくはいきません。中には途中で枯れてしまう菊もあります。大切なのは、どんな気持ちで育ててきたのか、ということです。その思いをみんなの前で一人ずつ話し、それを聞くのも鑑賞会で大切にしています。学年ごとに、思いがあって、それをふりかえることは、自分の成長についても見つめられるはずです。にぎやかな菊の子汁づくりの後の、しっとりとした素敵なひと時です。

最後には、風船上げ。この風船には一人一人の願い事が書かれています。願いが天まで届くように、一斉に上がる様は圧巻です。そして数日後、学校にお便りが届きます。「小学生の夢を見て、日本の将来が楽しみになりました。」という方もいらっしゃいました。菊の子の夢が更に広がります。